

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念であり、事業所としての理念でもある「無財の七施」に基き、個人を尊重したケアに取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事業所内に運営理念を掲げており、毎朝の朝礼時には全員で唱和し、理念の共有及び実践に努めている。また、名刺裏にも七施を記載し、常に意識するよう心掛けている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご見学やご面会時には「七施」の実践をもって、家族会の際には運営理念についての説明の場を設ける等の取り組みを行っている。また、多くの方の目に留まるよう、名刺裏面にも運営理念を記載している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	当館は地域の方の散歩コースとなっている歩道に接しており、毎日散歩される方も多く、和顔施と言辞施で気持ちの良い挨拶を心掛けている。最近、ペットと入居者の方が触れあう時間を設けるために立ち止まって下さる方も居られ、入居者の方も大変喜ばれている。		今後も和顔施と言辞施、ひいては「無財の七施」で、地域の方と日常的なおつきあいができるよう努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花野路自治会行事へお招き頂いたり、会場として当館を使用して頂く等に加え、当館家族会は地域の方にも毎回参加して頂いており、積極的な交流に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に限定せず、地域の皆様の暮らしにお役に立てることはないか常時話し合いは行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時に運営者、管理者及び全職員で話し合う機会を設けており、第三者からいただく客観的な評価を真摯に受け止め、速やかに改善へ繋げるよう取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議を開催しており、そこで頂いたご意見や提案はミーティング時に全職員へ周知を行い、サービス向上に向けて努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	些細な疑問でも担当者へ尋ね、必要に応じ相談を行う等、区の担当課ならびに市のケースワーカーの方との連携は図られており、サービスの質の向上へと繋げるよう努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修への参加や、資料を用いた勉強会等を行うと共に、実際に制度を利用されているご家族様からリアルタイムで情報を得る等の機会を設けており、制度利用に関わる領収証等の資料提供等の援助はおこなっており、必要があれば支援できる体制も整えている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や、資料を用いた勉強会を行い、虐待についての理解を深めると共に、入浴介助の際は身体の観察を行っており、虐待を見過ごすことのないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は落ち着いた雰囲気作りを心掛け、入居者の方やご家族様の表情や声色等にも気を配りながら、疑問点等に対する説明を行い、納得して頂けるよう努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者を窓口とした苦情の受付を行っており、入居者の方の不満や苦情等は全職員へ対しプライバシーに配慮しながら周知を行い、その都度速やかな対応を心掛けている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご面会に来られた際に、暮らしぶりや預かり金等について随時ご説明しており、必要と判断した場合は電話によるご連絡も行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者及び職員は、常時苦情を承れるような雰囲気作りを心掛けながらご家族等との対話機会を設けており、その際いただくご意見・苦情には速やかな対応を行うよう努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度の全体ミーティングのほか、随時ミーティングを行うと共に、必要に応じ個人面談を行っている。また、毎日の伝達事項を通して職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員間の勤務調整や話し合いは頻繁に行い、柔軟かつ迅速に対応できるよう努めており、以前よりも柔軟に対応できる体制になりつつある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限になるよう、風通しが良く働きやすい職場環境作りに努めている。しかしながら、結婚等の個人的要因による離職については慎重を要するため影響が全くないとは言えない。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員は17歳から70歳まで幅広く、男女及び経験を問わず、個々の意欲を尊重した採用を実施している。また、事業所ではそれぞれの持ち味を活かし、様々な場面で能力を發揮する機会を設けると共に、休み希望はシフトに取り入れ、子供の居る職員については学校行事等への参加を優先できるよう勤務調整を行う等の配慮を行っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>研修や新聞や書物等の情報を用いた勉強会を実施し、人権についての理解を深められるよう努めている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>それぞれの経験や能力、段階に応じた研修や勉強会への参加を実施し、参加の際は交通費及び参加費用の全額会社負担や、資格取得支援制度として、本人の希望により資格取得に至るまでの教材費及び受験費用等を全額会社で負担しており、積極的な育成を図っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者連絡会や区内の事業者連絡会等へ参加し、積極的に名刺交換を行う等、地域に根付いた事業所となるよう取り組みを行っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩時間や食事の時間等を利用した運営者と職員のコミュニケーションは多く確保されており、些細な変化に目を向けると共に、3ヶ月毎の食事会を開催し、職種に捉われない交流を図ることで風通しの良い職場作りに努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は毎日現場を訪れ、職員一人ひとりに声を掛け、目に見える努力や実績、勤務状況のみならず、見えない努力まで把握するよう目を配り、公正な評価を行っている。また、希望者に対しては資格取得支援として費用全額を会社負担し、向上心を持って働けるよう努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>積極的に声掛けを行い、会話や仕草等を通してご本人からの情報発信を受け止め、性格や生活状況等の全人的な把握に努め、自然に受け入れて頂けるような関係作りを心掛けている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでのご家族のご苦労や悩み、サービス利用状況等についてじっくり会話する機会を設け、受け止めることで、事業所としてどう支援できるのか等、対話を通して信頼関係の構築に努めている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その方が何を今必要とされているか、また、その時必要と思われるものは何か見極めるためにも情報収集に努め、必要であれば他のサービスを紹介できるよう、柔軟な対応を心掛けている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談やご見学は随時承っており、急を要す場合も含め、可能な限り馴染みながらのサービス利用の開始に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご本人に寄り添い、一緒に時間を過ごしていく中での情報発信や会話を大切にしながら、古くからの慣わしや生活、その他のあらゆる内容について知らないことを教えて頂く等、特別なことはなくとも学ばせて頂いていることは多い。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際に、ご本人の様子や日常の出来事を報告することで、より多くの情報共有に努め、一緒に支えて行ける対等な関係を構築できるよう努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人及びご家族双方とのコミュニケーションを図り、それぞれの思いを大切にしながら、中立的な立場を保ちつつ、より良い関係を築いていけるよう努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のADLの低下等、様々な要因により馴染みの場所との関係継続は困難となっていくが、人間関係については現在の状況に配慮しながら、関係継続への支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間の円滑なコミュニケーションに配慮しながら、必要に応じ食卓の席替えを行う等、孤立せずに、一人ひとりが出ることを生かし、支え合える関係作りに努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所の近況報告や季節の便り、死亡による利用終了の方については初盆参りをさせて頂く等、ご縁を大切にさせて頂いている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の何気ない会話や表情等から、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位の検討を心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族と積極的にコミュニケーションを図り、関わりを深めていく中で、必要に応じ関係者からの情報収集も行い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の些細な変化に目を配ると共に、職員の気付き等も含めた毎朝の朝礼や申し送り帳、ケース記録で活用し、その時々々に即した総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族や必要な関係者との話し合いの機会を設けると共に、職員間でも職種に捉われず意見交換を積極的に行い、より良いケアを目指した介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごと及び介護保険更新時に加え、入院等による状況の変化に伴い、随時ご家族、必要な関係者、職員と話し合いの機会を設け、新たな計画の作成に努めている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアを通し、気づいたことや些細な言動、行動の変化等の随時申し送りを行うと共に、詳細な介護記録を作成し、職員全体での正しい情報共有に努め、介護計画見直しの際はそれらの情報及び工夫等を取り入れている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性というべきかは解かりかねるが、常に出来得る範囲での対応はさせて頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じ、地域の民生委員の方やボランティアの方にご協力頂いている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターや他事業所のケアマネージャーとの情報交換に努め、意向や必要に応じて他のサービスを利用できるよう支援を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの情報交換を行うと共に、運営推進会議以外にも行き来する機会を設け、必要に応じ協働できる体制を整えている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族との話し合いの場を設け、納得を得られたうえでかかりつけ医を決定している。また、かかりつけ医とは密なコミュニケーションを図り、必要であれば透析受診や入退院時の手続き等の医療面での支援を行っており、一人ひとりの適切な医療は確保されている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関との密な連携により、認知症についての診断、治療等の支援を行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置すると共に、協力医療機関の看護師とは連携を密に図り、気軽に相談できる関係を築いており、健康管理や医療活用の支援に繋げている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院関係者、特に医療連携室の方との密な連携は確保されている。また、入院された場合は入院先の現場スタッフの方や主治医、かかりつけ医を含め、情報交換等を密に行うことで早期退院に向けての支援体制を整えている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約までに至る段階から、重度化した場合や終末期のあり方について話し合いの機会を設けると共に、状況に応じ何度も話し合いを行い、ご家族、かかりつけ医及び職員全体での方針を共有している。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>当館は開設時よりターミナルケアに積極的に取り組んでおり、利用開始時や状況が変化した場合にもその都度重度化及び終末期について話し合いを重ね、それぞれの役割を正しく理解した上で信頼関係に基づきチームとしての支援を行っている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えに至るまでに、話し合いの場を多く設けると共に、住み替え後も必要に応じ柔軟に情報交換を行い、環境の変化によるダメージを最大限抑えられるよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の方を個人として尊重し、七施の理念のもと、一人ひとりの個性に応じた声掛けや対応を心掛けている。また、個人情報についても取り扱いについての指針を設け、慎重な取り扱いを心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの残存能力に配慮した意思疎通を心掛け、日常の場面場面で自己決定や意思表出ができるよう努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、入居者一人ひとりのペースや希望に沿った支援を行うよう心掛けているが、体調や天候等により希望に添えないことや時には職員の都合を優先してしまう場合もある。		一人ひとりのペース等の情報共有を行い、事前に情報を得ることで職員の気持ちにゆとりが持てるよう努め、一人ひとりに合った声掛けや介護を心掛け、その人らしい暮らしの実現に努めたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	二ヶ月に一度の訪問美容室を利用して頂いており、希望を取り入れながらカットして頂いている。また、更衣の際は、ご本人と相談をしながら衣類の準備を手伝う等の配慮を心掛けている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にはある程度入居者の好みを反映させ作成しており、献立をフロアに掲示し話題にされる事が楽しみの一つとなっており、能力に応じ、下膳やテーブル拭き等へ参加されている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	安全を最優先しているため館内は禁煙とさせて頂いているが、その他については健康状態や既往等を考慮しながら、可能な限り楽しんで頂けるよう努めている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄についての記録を確実に残し、一人ひとりの排泄リズムや習慣を職員全体で把握することで気持ちよい支援となるよう努めており、失禁をさせないケアを目指した取り組みを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則は週二回としているが、状況に応じ適宜の入浴を実施している。また、入浴時の湯温や洗身の手順等は一人ひとりの好みに配慮し、楽しんで頂けるよう努めている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの好みや体調、生活習慣の把握及び情報共有に努めると共に、寝具の清潔保持やその時々状況に応じた空調や調光、テレビが点いてないと眠れない方はテレビを点けておく等の配慮を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護度の高い方が多いため、きめ細かい支援は困難ではあるが、洗濯物たたみ等の家事や塗絵、散歩等の機会を積極的に設けると共に、他入居者とのコミュニケーションの中で、お互いに助け合ったりできる環境作りに努めている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	万単位での金銭所持はご遠慮して頂いているが、小額の金銭は能力に応じ所持して頂いている。また、敷地内自動販売機の利用や、月に一度の出張コンビニ、近隣商業施設への買い物等のお金を使う機会の確保に努めている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や天候等によるものの、散歩や短時間ではあるがドライブにお連れする等、外出機会の確保に努めている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力が得られる方については、車椅子等の福祉用具の貸し出しや、ご本人に関しての情報提供、外出前の入浴や整容・排泄介助、内服薬の準備及び補足説明等を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの電話の取次ぎは随時行っており、希望があれば電話を掛ける等の支援を行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪された際は、和顔施と言辞施でのお迎えを心掛けると共に、空調や環境整備等に気を配り、椅子の貸し出しやお茶の提供等寛いで頂ける雰囲気作りに努めている。また、お帰りの際には事業所の敷地を出られるまでのお見送りを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの設置や、職員全体で身体拘束についての勉強会を行い理解に努めており、当事業所開設時より「身体拘束を行わない」ケアを徹底しているものの、全職員が正しく具体的な行為を理解しているとは言い難い。		勉強会を定期的実施すると共に、実際にケアを行っていく中で、禁止対象となる行為等についてスタッフ間で確認を行い、正しい理解の下での身体拘束を行わないケアを行っていききたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当館では、開設時より「鍵をかけないケア」を実施しており、原則無施錠としている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個室については立ち入る前にノックをし、声掛けの内容についても一人ひとりの能力に応じた配慮を心掛けつつ、所在や様子の確認に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの残存能力や状況に応じ、注意を要すものについては一緒に使用する、または見守りを行う等の対応を心掛け、危険防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを設置し、職員全体で事故防止についての勉強会等を行うと共に、一人ひとりの状態から考えられるリスクについても随時話し合いを行っている。また、緊急時には管理者へ報告し、その指示の基に速やかな対応を心掛けている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医療機関の指導のもとに、研修形式にて実施すると共に、看護職員による応急対処法の指導等を随時行っている。また、緊急時に慌てることの無いよう、必要な物品の保管場所の確認、使用方法等を定期的に行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	花野路自治会の防災連絡網を掲示すると共に、地域行事等への積極的な参加を行い、顔なじみの関係作りに努めている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時及び入居後においても随時一人ひとりの状況の変化を加味した起こりうるリスクについての説明を行い、双方で相談できる機会を設けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタルチェックや食欲、排泄状態等に気を配ると共に、些細な変化でも随時報告及び申し送りを徹底することで情報共有を図り、速やかな対応を心掛けている。また、職員は内線子機を常時携帯し、こまめな状況報告を併せて行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容については、分からない事は看護職員や調剤薬局、主治医等へ確認を行い理解や把握に努め、分かりやすい申し送りを心掛けており、薬の変更があった際は注意事項を伝達し、状態観察を行う等、状態に応じた服薬の援助及び症状の把握に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	医師による便秘に関する説明が随時行われており、看護職員からもアドバイス等をえることにより、薬に頼らない便秘予防に取り組んでいる。また、排便表を作成し記入することで日々の排便状況の把握に努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	提携医療機関との連携による勉強会を実施する等、口腔ケアについての重要性の理解を図り、口腔ケアの介助やケア後の確認等、一人ひとりの能力及び状況に応じた支援を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの既往等を加味しながら、栄養士による献立メニューを提供している。また、毎食の食事摂取量を記録すると共に、食事以外にも適宜水分補給の機会を確保している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを設置すると共に、看護職員による感染予防についての勉強会の実施や、職員についてはうがい・手洗いの励行、必要に応じマスクや予防衣の着用等を実行している。また、インフルエンザについては毎年予防接種を行い、感染予防に取り組んでいる。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	季節に沿った旬な食材の使用及び消費期限等の確認を行うと共に、調理器具については使用後の熱湯消毒等を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	安全を最優先としているため、必要最低限の物に限られているが、プランターの設置や観葉植物、季節の花等を飾っている。また、臭い等に注意を払い、不快感を感じないように玄関周りは清潔な空間となるよう心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔の確保に努め、十分な採光や、カーテンや照明による調光、音等に配慮し、フロアには季節の花や壁新聞を飾る等の工夫は行っている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歩行や移動の邪魔とならないよう配慮した上で、リビングや日当たりの良い窓際にソファを設置し、ご自由に使用して頂いている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望に沿えるようご家族と相談し、必要に応じてタンスや仏壇等を持ち込んで頂いており、ご家族の写真や手紙を壁に飾られている方も居られ、居心地良い居室作りに努めている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の清掃時や、状況に応じ適宜の換気を行っている。また、空調については温度設定を設けると共に、ある程度の衣類での調節を行う等の配慮を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーとなっており、滑り止め加工の床材の使用や手すりの設置、ドアノブや洗面台、トイレ、浴槽等は車椅子の方でも使用しやすいものを使用している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	過剰な介護を避け、一人ひとりの残存能力に配慮した声掛けや適切な介助を行えるよう努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	安全を最優先しており、駐車場確保等の諸事情により敷地に限りがあるため外周の活用は困難であるが、天気の良い日は散歩や日向ぼっこ、春には歩道の桜見物等を楽しんで頂いている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

大正館では、いつでもどこでも誰にでも出来る「無財の七施」を理念に掲げ、性別や身寄りの無い方、特別な医療を必要とする方等にかかわらず利用して頂けるよう努めており、職員についても同様に性別、年齢、経験を問わず意欲と人柄を重視した採用を積極的に行っている。また、開設時よりターミナルケアについても力を入れており、職員一同は最期の時を一緒に過ごさせて頂けることに感謝と誇りの念を持ち、今後もチームとしてより良いケアが出来るよう取り組みを行っていく所存である。